
予定調和

逢坂十七年蝉

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

予定調和

【Nコード】

N9112V

【作者名】

逢坂十七年蝉

【あらすじ】

企画競争参加作品。お題は、自殺。

鬱な話なので、そういうのが苦手な方はご遠慮ください。

タクシーのラジオは珍しく大阪に台風が来ていることを伝えていた。暮れ方の第二阪奈はいつも通り混んでいる。

窓を打つ雨粒は次第に大きくなり、風も激しさを増していた。

オレはメールが来ていないか、背広の胸ポケットに突っ込んだままだった携帯を確かめる。

着信は、無い。

間違いであつてほしい。

動かないタクシーの車内で、オレは祈るような気持ちを抱えて頭を抱えた。

師匠が、死んだ。

自分で、それを選んだ。

いつも飄々としてとらえどころがなく、ぬらりひょんとアライグマとナマケモノを足したような、あの師匠が。

正式に師弟関係を結んだわけではないが、オレはあの人の弟子を自認していた。

弟子といつても、何の弟子というわけでもない。

人生の師、というほどのこともない。

何と言つても師匠とオレは同じ年で、しかも師匠の方が後に生まれた。

大学の回生も同じだし、浪人した年数も留年した年数も同じだ。

それでも、師匠は出会ったときから師匠としての風格を備えていた。喩えるなら崑崙山脈辺りに漂う師匠という概念が雨水に溶け込み、

日本海を越えて琵琶湖に降り注ぎ、それに身を浸したナマズが突然変異したような人だ。

師匠とオレは恐らく100か200は存在する大阪 大学（には好きな熟語をお入れ下さい）の一つに潜伏し、日夜“この世の神秘”と“もののあはれ”の探求に没頭した。

方法は無数にあったが、アルコールで脳髓を清めながら馬鹿馬鹿しい漫画を読んだり、下らないアニメを見たりするのがお気に入りだった。

二人とも、馬鹿だったのである。

師匠は、多分今の日本に上手くマッチしていなかった。

ジグソーパズルのピースの中に、一枚だけ円山応挙の切手が混じっている。そんな座りの悪さがあった。

四回生の秋にオレがコネで就職を決めた時も、うすらとぼけた顔をして、

「しっかり働けよ。私は働かんが」なんて言っていた。

生まれる時代を間違っていたんだろう。明治か、大正にでも生まれの方が良かったかもしれない。

それで師匠の人生が変わったとも思えないが、少なくとも今ほどの孤独さだけはなかったはずだ。

雨のカーテンの隙間から、天王寺の街が見える。いつの間にか、タクシーは高速を降りていた。

斎場に人は疎らだった。

ほとんどいないといってもいい。

職にも就かず、ぶらぶらしていた師匠らしい最期だ。

師匠は、文筆業を志していたらしい。らしい、というのは本人から直接聞いたわけではないからなのだが。濫読癖のあった師匠は、確かに文章は上手かった。でも、内容の方はあまり面白くない。世の中を斜に構えて見過ぎていたのだろう。表面を上手く描いていても、師匠の書くニンゲンには血肉がなかった。

「私の書く人間は、どうしてこう喉にテープレコーダーを仕込んだ人形みたいになるのかねえ」と零していたのが耳に残る。ひよつとすると、師匠には周りの人間全てがニンゲンに見えていたのかもしれない。だとしたら、一体師匠はどれだけ孤独だったのか。

服毒、というよりも睡眠薬の過剰摂取オバドクスで師匠は逝った。式の前に見せて貰った死に顔は、とても安らかだった。まるでこれから家に帰って何をするかを考えているかのような、そんな顔だ。

師匠のお姉さんが、オレに封書を渡してくれた。遺言、というほどではないが、オレに宛てたものだという。中には一言、「ありがとう」と書いてあり、千円札一枚と、五十円玉が入っていた。いつ貸したかも覚えていない。妙に、律儀なところのある師匠だった。

雨は、どんどん強さを増している。道路脇の排水溝を、凄い速さで濁流が流れて行く。

このまま流されてしまい気持ちを堪え、オレは焼香の列に加わった。

視界が、滲む。

ああ、もし次があるのなら、次こそは師匠が孤独でありませぬように。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9112v/>

予定調和

2011年10月8日04時40分発行